

グループ討議 課題

テーマ:リポジトリを学内構成員に周知する

グループ名 [ 1A ]

---

2018年度機関リポジトリ新任担当者研修



JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会

# 機関リポジトリを運営する上での課題

## 機関リポジトリの存在が学内で知られていない

- 存在が知られていないこと自体が課題
- 政府がOAを推進している以上、放置はできない

## まずはリポジトリの存在を学内構成員に周知

- 闇雲に説明会を開催しても誰も来ない…
- 教員や学生だけでなく隣の事務職員も知らない？

## 学内構成員の属性(教員,学生,職員)毎に検討

- リポジトリの利用の仕方は人によって異なる
- 属性毎に適切な広報の方法を考える

# 学内構成毎のニーズ

## 教員

- 自身の研究成果をもっと多くの人に知ってほしい
- 研究以外の業務に手間を掛けたくない

## 学生

- 授業や研究で使う論文を入手したい
- 過去の学位論文を読んで参考にしたい

## 職員

- 業務のために学内刊行物を入手したい
- リポジトリ担当の引継を円滑に行いたい

# ニーズに合わせてリポジトリを広報

## 教員

- 機関リポジトリの説明会/個人相談を実施する
- 業績入力等のワークフローに組み込む

## 学生

- 授業内で紹介してもらうよう教員に依頼する
- 学位論文執筆時に説明会を開催する

## 職員

- 実際に利用して良かったユースケースを紹介する
- 職員用のメーリングリスト等で存在を広報する

# 課題が達成したされた時に期待される効果

## 教員

- 研究成果を広めるとともに登録する手間を省ける

## 学生

- 授業や研究をより効果的に進められる

## 職員

- 身近なものとして親しまれ利用するようになる

「リポジトリを使って何をするか」という  
次の課題へステップアップできる！